

がん患者ケア 西胆振の拠点

製鉄記念室蘭病院

「診療センター」8月稼働



8月に稼働する製鉄記念室蘭病院の「がん診療センター」。完成予想図。がん患者への総合的なケアを進める施設として大きな期待が集まる。



放射線治療が可能に 化学療法充実も図る



建設が進む「がん診療センター」＝昨年12月3日撮影

室蘭市知利町の製鉄記念室蘭病院。松木高雪院長では、放射線治療室の新設と外来化学療法センターの拡充がメインとなる「がん診療センター」の建設を進めている。放射線治療の導入や化学療法の充実など、総合的な診療体制の強化によって、がん患者への一貫した治療が可能となる。今年8月に稼働の予定。がん患者への総合的なケアを進める施設として、大きな期待を集めている。

道のがん診療連携（じめと）手術や化学療法を中心とした多くの指定病院にも指定され、多くの放射線治療という放射線治療を行っている同病院では現在、がん患者の治療を積極的に行っている。がん診療認定医が積極的に進めている。8人籍、内視鏡をほ。ただ、「がん患者の」

「がん診療センター」の完成によって、同病院には放射線治療と化学療法を併せた放射線治療と化学療法を併せて手術の「がん診療センター」が設置されることになる。放射線治療と化学療法を併せたがん診療センターは、今年8月の予定。西胆振の地域医療にも大きく貢献する拠点施設として、今から期待されている。

一方、「医工連携」を推進している室蘭工業大学が、設計段階から協力。「患者が安心して暮らせる空間」をテーマにした造りとされている。

10床から病床に拡充することで、抗がん剤治療を進める外来患者の受け入れ体制も充実させる。さらに、木目の自然な風合いなどが特徴のファブリックや患者向けサロンなども設けることで、幅広い層がリラックスできる空間も創出する。

また、3階の大講堂は通常時は「がんセミナー」など住民や患者向けに開放する。一方、非常時には外来患者や住民らの避難所に転換。水や食料、簡易ベッドなどを備蓄する倉庫も設ける。

がん治療の中核施設「がん診療センター」について、松木高雪院長に聞いた。

— 建設に至った理由は。

「がん治療は現在、化学療法と手術、そして放射線療法の3本柱だ。当院では内視鏡などの手術や抗がん剤などの化学療法を充実させてきたが、この3本柱をそろえることが課題だった。患者さんのため、他病院に依存していた放射線治療の体制を整えることが第一であり、化学療法も充実させる狙いもある」

— 特色を教えてください。

「メインは放射線治療装置とPET-CTの導入。PET-CTがあることで、転移の特定が確実に進む。治療法の発展を受け、外来による化学療法のニーズも高まっている。外来化学療法センターや緩和ケア外来についても充実させる」

さらに、サロンや図書室なども入る。快適さの向上など、患者さんが治療に集中できるようにするコンセプトだ。設計段階から室蘭工業大学の協力をいただいているが、地域に根ざした新しい設計の『総合診療棟』と言ってもいい。

また患者さんにとっては、蘭東地域に立地する当病院で化学療法や放射線療法が受けられるということに大きなメリットがあると思

— 地域医療への貢献への考えなどをお聞かせ下さい。

「がん予防に向け、将来的には（同センターで）検診もできるようになれば、との思いもある。予防、診断、治療というラインで、お膝元の蘭東地域はもとより西胆振の住民に貢献できれば。また個人病院など他病院との連携もさらに密にできる。大講堂は災害時に避難所として活用できる。2012年の大停電を教訓に、災害に向けた備えも進めたい」



「がん診療センターの稼働で化学療法、手術、放射線治療の3本柱がそろろう」と話す松木高雪院長

「三つの柱」そろろう 松木高雪院長 インタビュー